

全体目標: 主な感染症疾患および感染症を疑わせる症状を起こす疾患について、疫学、病因、治療について幅広く学ぶ。また、基本的な微生物学的検査を自分で行うことができる。

個別目標:

- 1) 以下の検査に関し、①適応の判断 ②結果の解釈 ができる。
塗抹検査, 抗酸菌検査, 培養検査, 薬剤感受性検査, 抗体検査, 血清検査
- 2) 患者の臨床経過および培養検査の結果から、適切な抗菌薬の使用方法を述べることができる。
- 3) 塗抹検査から病原微生物を予想し、治療方針をたてることができる。
- 4) 感染対策が必要な症候、疾患に対し、適切な対策を指示できる。
- 5) 各種感染症について、ガイドラインに沿った診断および治療ができる。
- 6) 非感染性疾患に関して、診断することができる。

方略:

- ・血液・髄液培養陽性患者をラウンドし、指導医の指導のもと診療に対するコメントを行う。
- ・コンサルテーションのあった患者を診察し、指導医の指導のもと診療に対するコメントを行う。
- ・週2回(月, 金), ラウンド対象の患者についてプレゼンテーションを行う。
- ・複数の検体について、実際に細菌検査を行う(1コース/週)。
- ・抄読会:ローテーション中1回発表する。

評価:

- ・EPOC II による評価を行う。
- ・修了時に評価表(研修医の経験内容等に関する自己評価および感染症科の指導体制等に関する評価を記載)を提出。
評価表は感染症科のスタッフ・シニア以上のレジデント、全てが共有する。
- ・ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う。